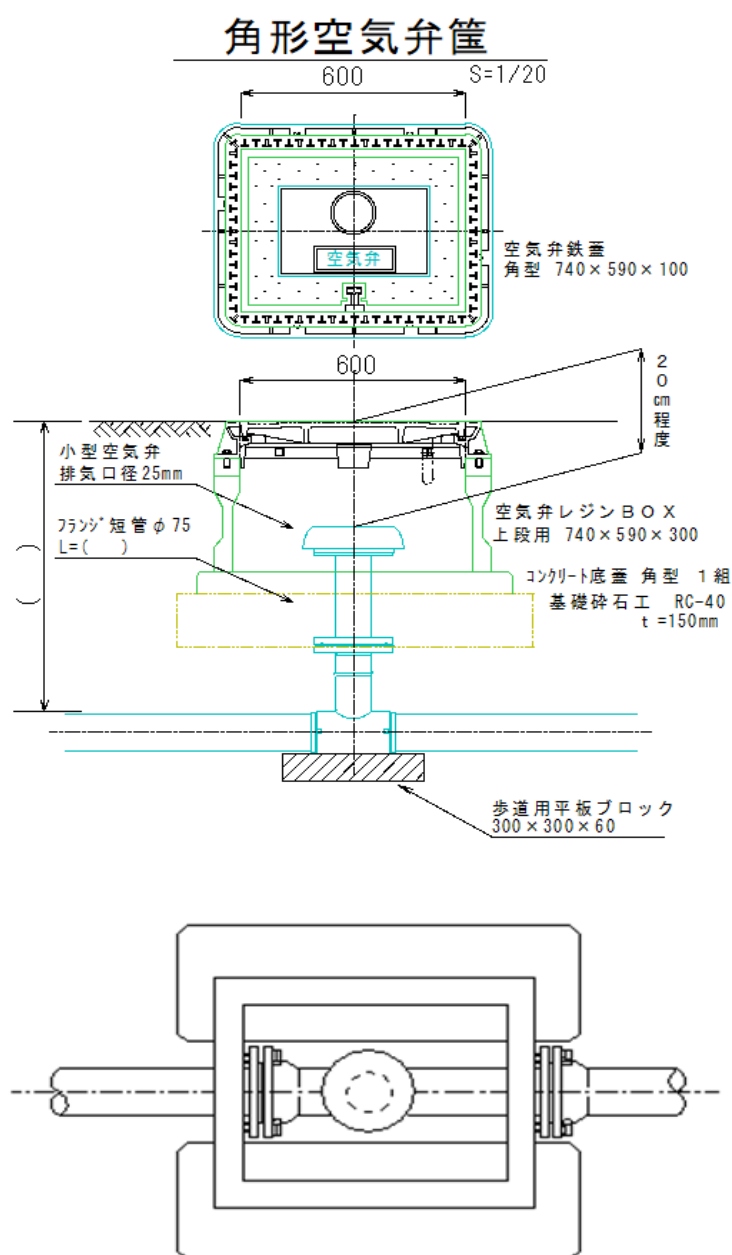


V. 弁・栓類設置要領

4. 水道用急速空気弁・筐の据付け

- (1) 空気弁及びハンドル付きフランジ仕切弁(補修弁)の設置にあたっては、分岐チーズ管芯を水平に保ち支管のフランジ面が水平になるように設置すること。
- (2) 空気弁、補修弁の設置に先立ち、弁の開閉方向を確認するとともに、弁体の異常の有無を確認すること。
- (3) 空気弁取り付けにあたっては、地表面と空気弁との間隔を 20cm 程度となるように、フランジ短管により調整すること。
- (4) 筐の据付けにあたっては基礎砕石 (RC-40 等) を十分に締め固めた後、底蓋の設置を行い沈下や傾斜が生じないようにすること。また、鉄蓋設置の際には路面高に合わせ、段差が生じないように入念に据付けると共に、舗装本復旧時には、より入念な擦りつけを行うこと。
※縦断・横断勾配関係で段差が著しく生じる場合には監督員と協議すること。
- (5) 設置完了時には、空気弁、補修弁を「開」の状態にしておくこと。

【空気弁筐】設置例



5. 地上式単口消火栓の設置

- (1) 消火栓の設置にあたり、設置場所が民地の場合は地権者の同意が得られていることを確認して指定の位置に確実に設置すること。
- (2) 基礎砕石 (RC-40 等) を十分に突き固めたうえ、歩道用平板ブロックを設置し、沈下や傾斜が生じないようにすること。
- (3) 弁胴に対し吸出防止不織布を確実に巻きつけ、周囲の砕石等が流入しないようにすること。
- (4) 地表面から 5cm 程度基礎コンクリートの天端を上げ、基礎コンクリートの天端から消火栓本体のフランジを 10cm 程度上げて基礎コンクリートを打設すること。

【消火栓】設置例

